

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4271200489		
法人名	有限会社 大東		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町里郷2343-2		
自己評価作成日	令和 2年 10月25 日	評価結果市町村受理日	令和3年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らして頂けるよう家族の協力を得ながら日々の暮らしを支援しています。入居者の視点に立ち自分に出来る事に取り組んで頂き、いきいきとした張りのある暮らしが出来る様心がけています。開設18年目に入り設備面の補修に気を配りいつも清潔で明るい空間を作り、心地よい暮らしが出来るよう努めています。又、新館の入居者と合同でお茶会する等楽しみごとを提供し入居者に喜んで貰っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームには当該地域でこれまで暮らしてきた入居者が多く入居しており、入居者同士が友人・知人といった関係を持ち、ホーム全体に親近感や安心感が醸成されている。職員は入居者への丁寧な支援に努め、入居者が孤立することなく、穏やかな日常を送ることに繋がっている。入居者にYouTube等で配信される健康体操や脳のトレーニング、電車運転体験等の動画を視聴してもらい、入居者に楽しんでもらいながら認知症予防や趣味活動等の継続に繋げている。職員は入居者にとって「できる事、やりたい事は本人に積極的に行ってもらう、過剰な支援は行わない」というホームの方針のもと、入居者本人の残存機能を活かした支援に努めている。最近では地域の高齢者対策の受け皿としてホーム近隣に新館を開設しており、今後も地域に根差した高齢者支援活動に期待が持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ほのぼの

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の思いを尊重しながらこの町に根差した理念を掲げ、職員全員で共有している	ホームの目標を玄関に掲示するとともに、職員会議の開催を通じて「笑顔を絶やさない介護の必要性」についてホーム長から職員に伝えている。また、OJT(職場での実務を通じた指導)による理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者も近隣の方がほとんどであり、事業所の経営者、管理者ともども地域の一員としての交流が深くなっている	ホームは地域の町内会に加入するとともに、常務も地域の消防団や商工会青年部に所属し、地域住民と情報交換を行っている。最近では地域の中学校で介護技術説明会の講話を常務が行うなど積極的に交流している。コロナ禍以前はホーム主催の敬老会やクリスマス会等を通じて地域との交流を深めていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合等で利用者を含め認知症の方への理解・協力を呼び掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、地域の民生委員・消防団長・地区役員・町の関係者を交え、サービス向上に向けて話し合いを行っている	運営推進会議は現在、コロナ禍の影響により各委員に案内状を送付し、書面会議形式で行っている。会議では時季に応じた議題やテーマを決めて活発な意見交換を行うほか、運営推進会議の委員として地域の消防団にも参加してもらい、消防計画作成時に助言を得るなど有意義な場となっている。	現在、運営推進会議の開催に合わせ、その都度議題を決定し意見交換を行っている。今後の取り組みとして、例えば年初に年度分の議題やテーマを設定し、議題やテーマに沿った出席者や講師の依頼を検討するなど、より充実した会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の担当者にケアサービスの取り組みを伝え協力してもらっている	管理者は各種申請書等の文書類提出で行政窓口を訪問し、情報の入手や意見交換を図っている。また、運営推進会議やグループホーム連絡協議会等を通じて意見交換を図るとともに、ホームの空床状況を地域包括支援センターへ報告するなど、日頃より行政などの関係機関と連携し協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化のための指針に基づき委員会を3か月に1度実施し、研修も含めその都度身体拘束をしないケアの重要性を確認している	職員から「センサーマットを入居者へ使用することについて身体拘束に該当しないか」と質問が出るなど、身体拘束をしないケアを実践する意識は高く、身体拘束に関する同意書など関係書式を整備している。尚、やむを得ず実施する場合は介護計画書のサービス内容に記載し、家族の同意を得ることとしている。ホームでは身体拘束適正化の指針を作成し、定期的な委員会開催や職員勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアの徹底をはかると同時に虐待防止も取り上げ勉強会を実施している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2年間ほど成年後見制度を活用された入居者がおられ、家族を含め学びの場となりよい体験ができた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約、改定等重要な場面では家族の意向を聴き十分な話し合いのうえで決めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の活用や直接利用者に要望を聴いたり、年1回の家族へのアンケートを取るなどして運営に反映させている。家族会も開催している	ホームでは家族が意見を記入しやすい様工夫した家族アンケートを毎年実施し、回収率も高い。集約した意見は職員間で回覧することで入居者支援に活かすよう努めている。尚、玄関に意見箱を置いているが、意見の投函には至っていないのが実情である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議の場で意見を求めたり、直接聞くなどして運営に反映させている	ホームでは職員会議を毎月開催し、3か月に一度は身体拘束適正化委員会を兼ねて全職員参加のもとで行い、職員意見の把握に努めている。会議では入居者に関する具体的な支援内容についての意見が主であり、職員の個人的な相談等については職員リーダーや管理者が随時聴き取るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務実態に合わせ、勤務形態の考慮、賃金の見直しを行う等、個々人に配慮した職場となるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者と連携し、職員の力量に合わせた内外の研修への参加を促し、介護福祉士等資格取得への支援も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム間で年間計画を作成し、管理者・ケアマネ・介護職員の3交代制で勉強会を行い、サービス向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面接し、不安や要望を傾聴し、家族も交えて丁寧な説明を行い信頼関係を築いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約書を取り交わす前に家族の思い（不安や要望等）を傾聴し、丁寧な説明を行い、安心感を持ってもらえるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約書を取り交わす前に家族の要望と本人の状態を照らし合わせ、様々な介護制度の利用を視野に入れながら適切に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの出来る事を把握し、それを行うことで生きがいを持って暮らしてもらう意識のもと、職員との関係性を保っている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会制限を行い、本人と家族が接する機会が減っているが、ホーム内での写真を送ったりするなど連携を密にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で、利用者のなじみの人の訪問は減っているが、訪問の際は適切に対処している。外出支援は必要な場所のみで対応している	職員は入居者にとっての馴染みの関係者や馴染みの場所など把握した情報を職員会議で報告するとともに、記録に残すことで職員間での共有へと繋げている。コロナ禍以前は家族行事や地域の敬老会等に参加する機会も多かったが、現在は感染対策を講じた上で近隣の系列グループホームに入居している友人との交流が主となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲良く過ごされるよう楽しい会話を提供し、孤立することなく支えあって過ごしてもらえるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所された後でも必要に応じて本人や家族への支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活パターンに少しでも近い環境を整え思いや希望に添えるよう工夫している	家族からの意見や要望等の申し出が少ないため、ホーム担当者が家族や入居者本人の要望を推測し、適宜声掛けをしてその反応を見ながら本人の思いを汲み取り介護計画に反映するよう努めている。思いや意向を伝えることのできない入居者には日々の支援を通じて思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	対面時の聞き取りやご家族様との話し合いの際に、利用者様の馴染みの暮らし方を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やケアプラン管理表に日々の状態を記録し、それぞれの状態の把握に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のより良い暮らしの実現のため本人や家族の意見を聞き、無理のない介護計画を立て定期的にモニタリングしている	『安心と安らぎを基本とした生活』を介護計画作成の柱とし、介護計画におけるサービス内容が日々の入居者支援と直結する独自の実施記録を作成している。また、職員もサービス内容毎に詳細な支援内容を記入しているためモニタリングに直結しており、次回の介護計画見直し時に現状に即した計画立案や変更ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録や業務日誌、ケアプラン管理表に記入し、職員間で共有して介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じその時点で必要な支援を見極め、他のサービスへの移行も踏まえ家族とともに検討している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではあるが、利用者様とつながりのある方の訪問は適切に受け入れられている。不定期ではあるが外出支援として散歩を兼ねてドライブなど行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を聞いてなじみのかかりつけ医を決めてもらい、往診など適切に対処してもらっている	ホームには月2回提携医による訪問診療がある。専門医等への受診の際にはホーム長または近隣の系列グループホームと兼務している看護師が同行支援しており、受診時は入居者の健康状態が把握できる記録を持参している。尚、入居者の状態に応じて必要がある場合には家族の同行も依頼している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護員は利用者の身体に関わる気づき等を看護師に報告し、不在の場合は看護師申し送り簿に記入して活用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された時は早期に病院関係者と連携をとり、情報を共有し今後の対応に向け話し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合、早い段階から家族に報告し意向の確認を行い、ホームでできることを説明し納得をいただき介護に当たっている	ホームでできる範囲の看取り支援を行っており、入居者への食事介助が困難となった時点で主治医、家族と相談し今後の方針を決めている。看取り時期の判断及び家族への告知については医師を通じて行っている。また、看取り期における職員の心理面での負担を考慮し、マニュアルの整備や看取りに関する勉強会を実施してチームで支援するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基にその都度勉強会を行い、救命訓練等年1回程度の訓練を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害が発生した際は町管理の施設に避難することと決めており、7月豪雨の際は実際に避難し安全を確認した。また火災訓練は年2回定期的に行って意識を高めている	ホームでは定期的に消火、避難訓練を実施し、地域の消防団にも常務が加入し協力体制を築いている。また、AEDを使用した救命訓練も実施している。今年7月の集中豪雨の際には近隣の系列グループホームと合同で行政指定の避難所へ実際に避難し課題点を改善するなど、防災への意識が高い。	避難時の緊急持ち出し一覧表を作成しているが、例えば、介護・医療保険情報の追記や状態確認ができる入居者写真掲載など、避難場所で入居者の情報をより把握しやすいよう一覧表を工夫することに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を理解し人格を尊重した言葉遣いを心掛けている。トイレ誘導等はプライバシーに配慮して行っている	職員は排泄の失敗に対する支援の場面ではさりげない声掛けに努めており、介護の現場では入居者の目線、声のトーンに配慮するよう努めている。また、居室への入室時にはノック及び声掛けを行い入室している。職員が記録したメモ類は必要に応じてシュレツダーで破棄している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表現できる方はもとより、表現が難しい方でも思いを察し言葉かけ等を密に行い自己決定を促している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員サイドに合わせることなく一人ひとりのペースに合わせ、心豊かに1日を過ごしていただくよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容を手伝いながら服選びと本人の希望を聞いて、個性を引き出して1日を過ごしてもらっている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく取れるよう食器もそれぞれ違った個性を出し、後片付けや茶碗ふきなど積極的にされている	献立は1か月分を職員全員で決定し、食材は3日に一度の割合で管理者が購入しており、入居者の嗜好は可能な限りその都度対応している。全入居者が普通食で1名のみ食事介助を行っている。テーブル・食器拭きなど入居者の残存能力を活かす場面があり、和やかな食事風景となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量、水分量をチェック表に記入し、観察記録表に1ヵ月分ずつまとめて栄養バランスの把握をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所へ誘導し歯磨きをしてもらい、磨き残しがないかチェックし不十分な場合は介助し衛生保持している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な声掛けによるトイレ誘導で失敗やおむつの使用を減らす努力を職員一丸となって行っている	ホームでは布パンツ・リハビリパンツ・オムツ・尿取りパット併用など入居者個々の状態に合わせて使用しており、交換する際の手順もスムーズ且つ清潔に手際よく短時間で行っている。尿取りパット類の適正な使用についての検討を毎月の職員会議で協議し、家族への金銭面での負担にも配慮している。夜間帯は2時間毎に居室の見回りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便、排尿回数のチェック表をつけ、体調管理を看護師と連携して行い運動も適切に行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるが、体調や本人の希望に合わせて支援し楽しく入浴されるよう心がけている	入浴は原則的に週2回支援している。湯温や入浴の順番については入居者本人から希望を聞き取り、臨機応変に対応している。脱衣場や浴室には急激な温度差が生じないように冷暖房を設置している。皮膚疾患のある方への対応については、医師の指導もありマットの交換や入浴順に配慮し、入浴を拒否する方には無理強いしない支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は一人ひとりの生活習慣に合わせ気分よく休んでいただき、昼寝に関しては希望された場合は短時間居室に誘導している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれが服用している薬の効能・用法・薬品名を記入したチェック表を作成し、その副作用も視野に状態を把握している。また与薬チェック表も毎回記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな利用者にはもやしの芽取り等の簡単な調理作業を、また食後は茶碗ふきやテーブル拭きなどを喜んでさせている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨今のコロナ禍で外出の頻度が減っているが、季節感を味わってもらいたく春の桜見物や、茶畑見物、秋はコスモス見物等都度都度出かけて喜んでもらっている	現在、コロナ禍のため外出は自粛しているが、車中から花見をするなど外気に触れる機会を作ることで、入居者の気分転換を図っている。好天時は玄関前に椅子を置いて職員と入居者が会話を楽しんだり、日向ぼっこをする機会も多い。コロナ禍以前は家族行事への参加や馴染みの場所への外出、関係者との交流なども積極的に取り組んでおり、コロナ終息後には再開する意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては所持を希望される方のみ小額を手持ちの財布に入れ、収支を別紙に記入し家族と共有している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住む家族からの手紙は読んでもらった後居室の壁に貼り、いつでも読める状態にするとともに、携帯などで本人の元気な笑顔を送付し喜んでもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地良く暮らしてもらえるようこまめに温度調節、換気、光の調整などを行い、ホーム壁面にはみんなで手作りしたはり絵等季節感あるものを飾り楽しんでもらっている	リビングの壁面には絵が得意な職員が四季に合わせて描いた絵画を貼ることで季節が感じられる。共用空間は早出及び夜勤の職員が朝夕の清掃、夕方の手摺等のモップ掛けを行い住環境の清潔保持に努めるとともに、除菌・空気清浄機、加湿器を設置し感染症への対策を講じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中についたてを置いて1人になれるソファもあり、思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族の思いを尊重し、なじみの品を持ち込んでもらい、自然体で居心地良く暮らしてもらえるよう支援している	居室には入居者にとって馴染みの物や家族写真等を持ち込んでおり、入居者の身体状況に配慮した家具の配置や温湿度の調整、行き届いた清掃など細やかな気配りが窺える。尚、酒類・刃物・火気類・ペット等の持ち込みを禁止している物については契約時に口頭で説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や食堂自分の教室は迷わず行けるよう目の高さにイラストを掲示し、足元も安全に配慮したバリアフリーとなっている		